

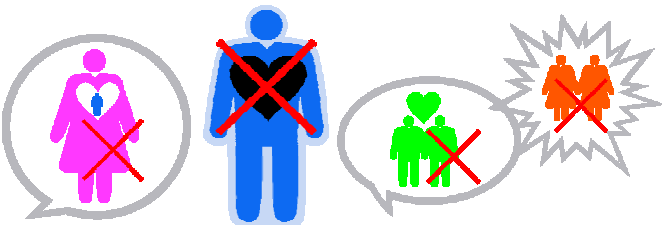
セクシュアルマイノリティが直面しているもの

同性愛や性同一性障害の人を対象としたいくつかの調査では、「自殺を考えたことがある」と答えた人が、実に全体の6～7割に上りました。その生きづらさの原因は何なのでしょう。

● 正しい情報が周りにない

現在の学校教育では、セクシュアリティについて学ぶことがほとんどありません。加えて、周囲から「同性愛は気持ち悪い」「結婚して子どもをもうけるのが当たり前」というような、多様な性について否定的な情報を得ていることが多く、こうした子どもの頃からの経験を通して、偏見や嫌悪感を持つようになってしまいます。

セクシュアルマイノリティ自身も、こうした環境の中で自己を肯定できず、将来へ希望が持てなくなったり、悩みを明かせなくなっています。



自己の性を否定することで自尊感情が低下してしまったり、自己の生をも否定することになりがちです。

● いじめ、暴力

セクシュアルマイノリティであることを理由としたいじめが起きています。特に性別違和のある男子では、8割を超える人が学校でいじめや暴力を経験していました。

● 就職、就業の問題

セクシュアリティに関することで職場で嫌がらせを受けたり、精神的に追い詰められて辞職せざるを得ないような状況になることがあります。

またトランスジェンダーでは制服や更衣室、治療に関することなど就業時の性別について話し合いが必要になることがありますが、そのような場を設けずに不採用や解雇となるケースもあります。

● パートナーとの関係

パートナーであることが認められず、恋人が緊急入院しても連絡や面会ができなかったり、二人で築いた財産が相続できないなどの問題があります。また、二人の関係を周囲に説明しづらいことで、災害時に安否を確認できないこともあります。

ここに、虹を。—題と表紙イラストについて—

虹は、セクシュアルマイノリティも否定されることのない、多様な社会の象徴です。しかし、セクシュアルマイノリティに対する偏見や差別は未だ存在し、セクシュアリティの多様性が認められる社会が実現されているとは言えません。

虹をさえぎる雨粒が一つでも減ることを、一人でも多くの方にセクシュアルマイノリティへの理解を深めていただくことを、心から願って、このパンフレットは作られました。

お読みいただき、どうもありがとうございました。

スクランブルエッグについて

スクランブルエッグは、性の違いに関わらず、誰もが幸せに生きることのできる社会・地域を目指して、2008年から青森県内で活動している市民サークルです。セクシュアルマイノリティの当事者と、応援する人たちが参加しています。

「無理せず、楽しく、できることを」をモットーに、機関紙の発行、展示イベント、講師やスピーカーの派遣、研究・調査への協力など、多様な性について知ってもらうための活動を続けています。



お問い合わせ先：
gochamazetamago@yahoo.co.jp

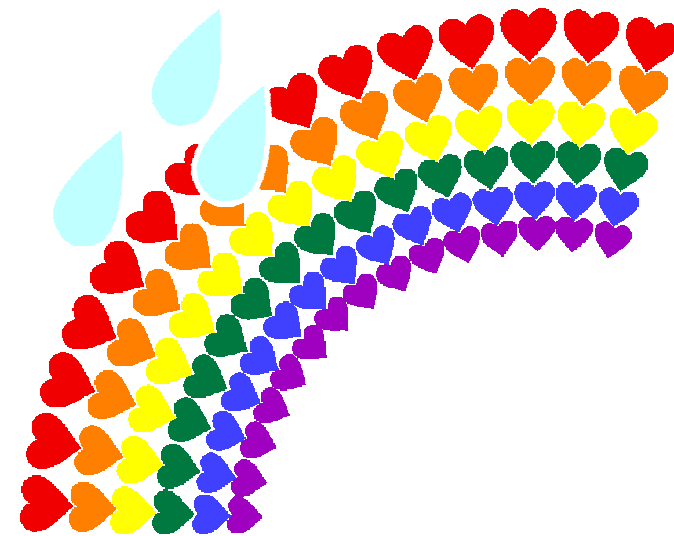
ウェブサイト：
<http://gochamazetamago.main.jp/>



セクシュアルマイノリティ・ボランティアサークル



2015年11月



セクシュアルマイノリティについて知っていますか？

ここに、虹を。



セクシュアルマイノリティは、すぐ側にいます

同性愛や性同一性障害など、典型的とされる“異性愛”の“男・女”とは性のあり方が異なる人たちのことを「セクシュアルマイノリティ（性的少数者）」といいます。レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字から、LGBTともいいます。

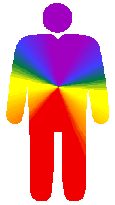
セクシュアルマイノリティは、これまでの調査から少なくとも人口の3～5%は存在するとされています。クラスに、職場に、友人に、家族に。あなたのごく身近なところで、セクシュアルマイノリティの人たちは一緒に暮らしているのです。

しかし未だに偏見や誤解は根強く、生きづらさを感じていることも少なくありません。

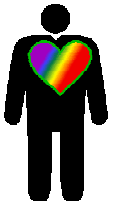
是非一緒に、性の多様性について考えてみませんか？

セクシュアリティ 一人の性のあり方

セクシュアリティとは、その人が自然にもっている性のあり方で、人格の一部です。主に4つの要素を組み合わせることで考えることができます。



1. 身体の性 … 生物学的性別／sex
性染色体、内・外性器、性腺など。
例) 男、女、性分化疾患（胎児期の性分化の過程で、典型的な男・女とは異なる発達）



2. 心の性 … 性自認／gender identity
自分の性別をどのように認識しているか。
例) シスジェンダー（自分の身体の性と同じ）、トランスジェンダー（自分の身体の性に違和感がある）



3. 社会的な性 … ジェンダー（gender）
男らしさ・女らしさ、社会的に割り当てられる性別役割、記号・表記など。
社会で生きる・人と関わる上で表現したり、求められたりする。



4. 好きになる性 … 性的指向
(sexual orientation)
どのような性別の人を恋愛対象とするか。
例) 異性愛、同性愛、両性愛など…

自分の性のあり方を、改めて考えることは少ないかもしれませんが。しかし実際には、トイレやお風呂、恋愛や結婚、服装、保険証や身分証明、人間関係から法律・制度に至るまで…普段意識していないところで、私たちは毎日性に関することに接して暮らしています。

このように、セクシュアリティは私たちの人生に大きく関わっているのです。

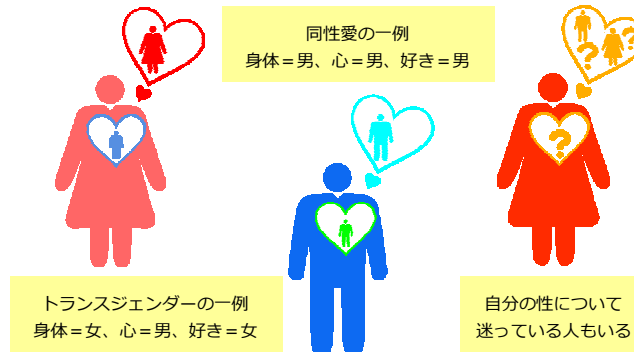
性とは、実はあいまいなもの

性は生まれた時から決まってい変わらないという考え方や、生殖を理由として男女の関係だけを正当化する考え方があります。

しかし広く自然界を見ると、性染色体ではなく環境によって性別が決定したり、環境によりオスからメスへと変化するもの、雌雄同体、無性別、同性間で求愛行動をとる動物など、性とは実はあいまいで不確定な面があり、多彩なものです。

そして、人においては、身体と心の性が一致しない人、好きにある性が同性である人、性別にはとらわれずに人を好きになる人、自分の性について迷っている状態の人もあります。

セクシュアルマイノリティは少数であるというだけで、正すべき誤りでも、趣味や癖のためでもありません。“異性愛”の“男・女”と同じように、その人が自然にもつ性のあり方で、その人の個性の一部なのです。



多様な性のシンボル、6色の虹

セクシュアルマイノリティのイベントでは、レインボーフラッグ（虹の6色旗）がよく見られます。セクシュアルマイノリティの尊厳を象徴するもので、アイデンティティの表明や、支持を示すシンボルとして使われています。

さまざまな色が一つの布の上に共存している様子は、まさにさまざまなセクシュアリティの人たちが、この世界で共に生きていることを表しているかのようです。

2015年にアメリカ合衆国の連邦最高裁が同性婚を認める判決を出した際には、ホワイトハウスが6色にライトアップされ、判決への支持を表明しました。

誰もが自分の色のままで存在できる、カラフルで多様性あふれる世界へ歩んでいきたいですね。

日本におけるセクシュアルマイノリティの状況

- 1990年にWHOが同性愛は病気ではないとし、日本でも1995年に、日本精神神経学会が同性愛は病気ではないと公式回答。
- 法務省の啓発冊子『人権の擁護』には、主な人権課題として同性愛等の性的指向と、性同一性障害の人への差別が挙げられている。
- 2008年に国連総会で宣言された、セクシュアルマイノリティに対する差別をなくすための声明に、日本も賛同している。
- 2012年の自殺総合対策大綱で、セクシュアルマイノリティへの支援の必要性について触れられた。
- 2013年には大阪市淀川区が全国初のLGBT支援宣言、2015年には渋谷区を皮切りに同性パートナーシップ条例など。

この数年は、国内でも様々な動きがありましたが、まだまだ課題は山積みです。例えば、10年に一度しかない学習指導要領の改訂に合わせて、教科書にセクシュアルマイノリティについて記載するための署名運動や、同性婚を実現するための人権救済申し立てなどの運動が進行中です。

こうした働きかけが実現されていくためには、これからより多くの人の協力が必要なのです。

性のあり方によって、差別されない社会へ

セクシュアルマイノリティに関する問題で大切なことは、性が多様なのは自然なことなのだという情報が、より多くの人にきちんと伝えられることです。差別すべきものではないということ、一人でも多くの人を知ることです。

性に関することは、触れてはいけないことのように扱われがちです。しかし性は、生と切り離すことはできないものです。多様な性に対する誤った認識が、数多くのセクシュアルマイノリティの人たちの尊厳を傷つけているのが現状です。

誰もが自分らしく生きていくために、まずは知ることから初めてみませんか？

あなたのすぐ側に、セクシュアルマイノリティの人たちは存在しているのです。